

単元を見通して課題を追究し解決する授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 児童生徒が社会的事象等から問いを見だし、見通しをもって課題解決に向かうことができるよう、単元を構想する。
- ② 社会的な見方・考え方を働かせて課題を追究することができるよう、資料提示と発問を工夫する。
- ③ 1人1台端末を用いて、資料を読み取ったり情報を発信したりする活動や、課題解決に向けて共同で作成・編集等を行う活動の充実を図る。
- ④ 自分で調べた知識を基に、互いの意見を比べたりつなげたりしながら、社会的事象の特色や相互の関連を自分の言葉でまとめ、表現する活動の充実を図る。
- ⑤ 単元の学習活動や分野の目標の違いに応じた適切な評価規準を設定するとともに、評価方法を工夫し、評価した結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かす。

児童の興味・関心等に沿って、課題を追究し解決していく学習の例

小学校第5学年

単元名「米づくりのさかんな地域」

◇単元の目標（一部）

食料生産に関わる人々の働きを考え表現することを通して、これからの農業の発展について考えようとする態度を養う。

【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】

◇主な学習活動（全11時間）

【第1・2時】 課題を把握する

○資料から米づくりへの関心を高め、学習問題をつくり、予想や学習計画を立てる。

【第3～7時】 課題を追究する

○米づくりについて、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用等の視点から調べる。

○生産者と消費者のニーズを考え、表現する。

【第8・9時】 課題を解決する

○調べたことを基に関連図をつくる。

○学習問題について自分の考えをまとめる。

【第10・11時】 多角的に考える

○日本の農業が抱える諸課題の改善と農業の発展を考え表現する。

◇本時のねらい（10・11/11）

農業の課題と米づくりに関わる新たな取組を関連付けて日本の農業の発展を表現する活動を通して、よりよい社会について考える。

◇学習活動

1 単元の学習問題についてまとめたことを振り返り、日本の農業の課題を確認する。

2 本時の学習問題を確認し、解決の見通しをもつ。

日本の農業の発展にはどのようなことが大切なのだろうか。

3 各自で日本の農業の課題に対する取組を調べ、まとめる。



4 各自がまとめた内容を紹介し合う。

<個別最適な学び>

・個別の課題解決のための資料を複数用意し、児童の多様な学びに対応できるようにします。クラウド上にあらかじめ必要な資料を準備しておくことも効果的です。

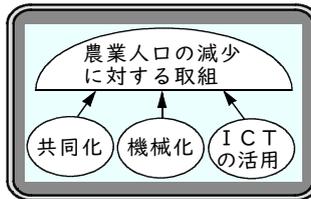
ICT23

<協働的な学び>

・各自がまとめた社会的事象の特色や関連を共有して、複数の立場や意見を踏まえて考えられるようにします。

ICT34

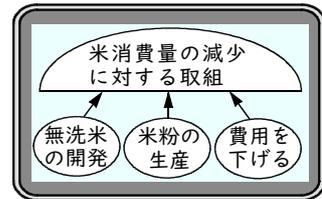
【Aさんのまとめ】



機械を共同で使ったりICTを活用したりして地域の農家の共同化を進め、効率よく大規模な生産を進めることが、農業人口減少への対策になると思います。



【Bさんのまとめ】



消費者が便利だと感じる商品の開発や、米づくりにかかる費用を下げ、売るときに価格をおさえることで、米の消費量を増やせるのではないかと思います。



単元における個別最適な学びと協働的な学びの具体化

<個別最適な学び>

指導の個別化

単元における目標を達成するために、稲作について、自分に合った調べ方やまとめ方、考えを広げ深めるための交流活動を選択する。

学習の個性化

興味・関心等に応じて、稲作について追究する内容や追究の際に用いる統計や写真などの資料を、児童自身が決める。

<協働的な学び>

調べたことや考えたことを交流し、よりよい考えを生み出す。1人1台端末を活用して学習過程を相互に参照したり、共同編集機能を用いて作業したりする。

5 日本の農業の発展のために大切なことを、友達のことを参考にしながらまとめ、表現する。

6 単元の学習を振り返る。

◇評価規準

- ・学習したことを基に、農業の発展について多角的に考え表現している。【思考・判断・表現】（学習シート）
- ・農業の発展を表現することを通して、よりよい社会について考えている。【主体的に学習に取り組む態度】（学習シート）